



人間生活学部

教育研究上の目的

人間生活学部は、建学の精神に基づき、「食・栄養・運動・福祉」を教育研究の中核とし、人々の豊かな生活と健康の保持・増進に寄与するために必要な専門的知識と技能を備え、多様な人々の健康で幸福な【健幸】を支援できる人材を育成することを教育研究上の目的とする。

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

人間生活学部は、次の学生像を人材育成の方針とする。

1. 「食・栄養・運動・福祉」に関する知識を基に、生涯にわたって人・社会に関心をもち、「健幸」について科学的に思考し、探究しつづける力を備えている。
2. 多様な価値観と向き合い、他者を尊重し互いを認め合いながら、連携・協働する力を備えている。
3. 人間生活における様々な課題を見い出し、解決するための策を思考し、実践する力を備えている。

I
学
修

II
一資格取得

III
学人間生活

IV
学部教育人文

V
社会倫理

VI
教職課程

VII
諸課程

VIII
単位認定

IX
他大学との

X
大学院

XI
施設

XII
Q & A

XIII
規教務関連

八学
び
ンドブ
ック

カリキュラムマップでは、各学科の学生が、卒業までに身につけるべき知識・能力を得るために配置されているか、各授業科目の関連性などがわかるようになっています。

カリキュラムの授業科目間のつながりや年次進行などがわかりますので、履修上の参考にしてください。

共通科目 カリキュラムマップ

→ 必修科目

領域	学生が身につけるべき資質・能力	1年次	2年次	3年次	4年次
ゼミナール	<ul style="list-style-type: none"> 文章や資料の意味や意図を理解とともに、自分の考えを文章や図表などを活用してわかりやすく他者に伝えることができる。 他の意見に耳を傾け、その考え方を理解したり、話し合いを通して共感したりするなどに、自分の意見をまわりの人々にわかりやすく伝えることができる。 実社会や実生活を分析的に捉え、身の回りにある課題に気付くとともに、その解決に向けて必要な情報を資料を収集し解決に向けた糸口を見つけることができる。 実社会や実生活の中から課題を見出し、問い合わせ立て情報を収集し、整理・分析してまとめ、表現することができる。 身まわりの課題解決に向けて、グループやチームで協働的に取り組み、話し合いで通して考えをまとめ、表現することができる。 実社会や実生活にある問題を振り、手順を踏んで検討を重ね、解決に向けたアイディアを分かれやすく表現することができる。 他人との関わりの中で、主体的・協働的に取り組むとともに、自分の目標を明確にしながら積極的に問題解決に取り組むことができる。 他人との関わり合いの中で、互いのよさや役割を意識しながら新たな価値の創造を目指して協働的に問題解決に取り組むことができる。 他人と協働しながら解決策を検討するとともに、関係者の意見を取り入れながら異なる課題を見出し、その解決策を経験して探究していくことができる。 	入門ゼミナー	課題発見・探求ゼミナー	課題解決ゼミナー	総合ゼミナー
総合	<ul style="list-style-type: none"> 講義や講話を聞いて、自己の既存知識及び他の既存知識、概念と照合する中で、今までの先人親を塗るような学修をすることができる。 講義や講話を聞いて、問題意識をもち、疑問を持って学修する中で、今までの先人親を塗るような学修をすることができる。 講義や講話をに基づいて問題を集めたり、自己内対話をを行う、他人と対話したりなど、適切なノートテイキングができる。 講義や講話をに基づいて自ら選択した科目の重要性に気づいたり、そこでの知見及び他の者からの地獄を将来に生かそうとしている。 講義や講話をに基づいて自ら選択した科目の重要性に気づいたり、芽ばえた疑問点を追究する中で得られた知見を将来に生かそうとしている。 	地域で学ぶ 人間関係とコミュニケーション 総合科目 自主社会活動	地域と人間生活 人間理解ワークショップ		
人間	<ul style="list-style-type: none"> 資料を読み解し、疑問を持ってその内容を追究し、必要な資料を探して研究することができる。 さまざまな人の考え方を学びながら、自分でできるることを見極め、積極的に行動するなどに、グループやチームでの協働的な問題解決に取り組むことができる。 社会の実態を捉え、そこから問題を見つけるとともに、解決に向けて、多様な資料を活用しながら解決に向けた糸口を手に入れることができるとともに、複数の意見をもとに考察を深め、他人と力を合わせ、追究することができる。 他人との関わりにおいて課題を見つけ、解決に向けて仲間と一緒に行動するとともに、その過程を仲間にともに省察し、チームとしての成果を発表することができる。 現実の社会における事実の背景を探り、ものごとのプロセスを踏まえた検討ができる、解明した内容に関するレポートができるようになる。 自ら資料を収集し、内容を分析するとともに、複数の意見をもとに考察を深め、他人との関わりの中で資料を収集し、その内容を仲間とともに分析するとともに、多様な意見を踏まえ考察を深め、新たな追加課題を創造できる。 捉えた社会の姿をもとに、そこに至る過程に光をあてて、将来に向けての解決のためのビジョンを構想したり、仲間とともに実践的に解決策を考えることができる。 	キャリアデザインとライフプラン リーガルリテラシー ジェンダーリテラシー 子育てと環境 女性と健康	女性の心と身体	食の科学 歴史のなかの女性 芸術を読みとる	
社会		グローバル社会 ネットワーク社会 共生社会入門 多様性と倫理 持続可能な社会	くらしのなかの日本国憲法 ボランティア論	災害と社会 21世紀型の教育	
体育健		身体運動 I 身体運動 II			

ICT・データサイエンス	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器の操作、ネットワークに関する基礎的な知識を理解している。 情報に関する法規や制度、情報セキュリティの重要性を理解し、情報倫理を踏まえたICT活用について理解している。 データを収集、整理、分析する方法を身につけ、表現方法について理解し、さまざまな社会課題を解決していく力を備えている。 情報発信・受信活動的に活用する力を理解し、実際にICT機器の基本となる操作ができる。 情報発信ににおける責任、情報モラルについて理解し、情報発信手段の特性の理解及び、適切な手段の選択ができる。 問題の発見と解決に向けて意図決定する力を備えており、社会的な問題を解決することができる。 ネットワークサービス、コミュニケーション手段の特徴を理解し、それを生かしたICTを活用した情報発信や情報収集ができる。 情報社会に主体的に参画する態度を身につけ、自ら積極的に情報を収集し、発信することができる。 社会における課題をICTを通して解決しようとするとともに、仲間とともに協力して課題の解決に向けた方策を検討したり、その成果を生かして、身近な課題を解決することができる。 	はじめてのデータサイエンス 情報処理演習 I 情報処理演習 II
		英語コミュニケーション演習 英語 I a 英語 I b 中国語 I a 中国語 I b 朝鮮語 I a 朝鮮語 I b フランス語 I a フランス語 I b 海外語学研修 アドバンスト・リスニング アドバンスト・リーディング アドバンスト・ライティング TOEIC対策講座 中国語試験対策講座 日本語検定対策講座
外国語（基礎科目）	<ul style="list-style-type: none"> 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解をさらに深めるとともに、文字・音声から得られる情報の内容を的確に把握・情報を整理することができる。 コミュニケーションを行った目的や場面・状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、その概要や要点・詳細・話し手や聞き手の意図などを的確に理解し、実際のコミュニケーションにおいて活用できる。 言語を通じて得た文化や社会的な課題について、複数の資料を収集・活用して、考察を深めることができる。 文字・音声から得られる情報の内容を的確に把握・情報を整理し、その概要を文字・音声を使用してわかりやすい形で出せる。 コミュニケーションを行った目的や場面・状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報を整理しながら書きなぞることで、伝え合うことができる。 言語を通じて得た文化や社会における課題について、自らの意見をまとめて表現することができる。 日本語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解をさらに深めるとともに、他の者の意見との違いについて、日常的な話題や社会的な話題について、複数の意見を踏まえ考察を深め、新たな追加課題を創造できる。 他の者の意見を聞いたり、読んだりして、多様な意見を踏まえた上で考察を深めることができる。 言語を通じて得た文化や社会的な課題について、複数の資料を収集・活用して、考察を深め、仲間とともに課題を追究することができる。 	実践英語 a 実践英語 b ビジネス英語 映画・ドラマ英語 メディア英語
		総合日本語 I a 総合日本語 I b 日本語表現技術 I 日本語表現技術 II 日本語表現技術 III 日本語表現技術 IV 日本語研究 A (時事 I) 日本語研究 B (時事 II) 日本語研究 C (ビジネス I) 日本語研究 D (ビジネス II) 日本語研究 E (医療・福祉専門) 日本語研究 F (人文科学) 日本語能力試験対策講座 I 日本語能力試験対策講座 II 日本語集中講座 (編入)
日本語（非母語者）	<ul style="list-style-type: none"> 資料を読み解し、疑問を持ってその内容を追究し、必要な資料を探して研究することができる。 さまざまな人の考え方を学びながら、自分でできるることを見極め、積極的に行動するなどに、グループやチームでの協働的な問題解決に取り組むことができる。 社会の実態を捉え、そこから問題を見つけるとともに、解決に向けて、多様な資料を活用しながら解決に向けた糸口を手に入れることができるとともに、複数の意見をもとに考察を深め、他人と力を合わせ、追究することができる。 他人との関わりにおいて課題を見つけ、解決に向けて仲間と一緒に行動するとともに、その過程を仲間にともに省察し、チームとしての成果を発表することができる。 現実の社会における事実の背景を探り、ものごとのプロセスを踏まえた検討ができる、解明した内容に関するレポートができるようになる。 自ら資料を収集し、内容を分析するとともに、複数の意見をもとに考察を深め、他人との関わりの中で資料を活用して、追加の考察を仲間とともに分析するとともに、多様な意見を踏まえ考察を深め、新たな追加課題を創造できる。 捉えた社会の姿をもとに、そこに至る過程に光をあてて、将来に向けての解決のためのビジョンを構想したり、仲間とともに実践的に解決策を考えることができる。 	総合日本語 II a 総合日本語 II b 総合日本語 III a 総合日本語 III b
		インターンシップ短期 インターンシップ長期 キャリアデザイン入門 キャリアロールモデル研究 企業に学ぶキャリアデザイン プロアクティブ人材育成 キャリア基礎力 I キャリア基礎力 II キャリアサポート演習
キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 資料を読み解し、疑問を持ってその内容を追究し、必要な資料を探して研究することができる。 さまざまな人の考え方を学びながら、自分でできるることを見極め、積極的に行動するなどに、グループやチームでの協働的な問題解決に取り組むことができる。 社会の実態を捉え、そこから問題を見つけるとともに、解決に向けて、多様な資料を活用しながら解決に向けた糸口を手に入れることができるとともに、複数の意見をもとに考察を深め、他人と力を合わせ、追究することができる。 他人との関わりにおいて課題を見つけ、解決に向けて仲間と一緒に行動するとともに、その過程を仲間にともに省察し、チームとしての成果を発表することができる。 現実の社会における事実の背景を探り、ものごとのプロセスを踏まえた検討ができる、解明した内容に関するレポートができるようになる。 自ら資料を収集し、内容を分析するとともに、複数の意見をもとに考察を深め、他人との関わりの中で資料を活用して、追加の考察を仲間とともに分析するとともに、多様な意見を踏まえ考察を深め、新たな追加課題を創造できる。 捉えた社会の姿をもとに、そこに至る過程に光をあてて、将来に向けての解決のためのビジョンを構想したり、仲間とともに実践的に解決策を考えることができる。 	人間生活学部は、次の学年像を人材育成の方針とする。 1.「食・栄養・運動・福祉」に関する知識を基に、生涯にわたって人・社会に関心をもち、「健幸」について科学的に思考し、探究しつづける力を備えている。 2.多様な価値観と向き合ひ、他者を尊重し互いを認め合いながら、連携・協働する力を備えている。 3.人間生活における様々な課題を見い出し、解決するための策を思考し、実践する力を備えている。



人間生活学部（N） 共通科目教育課程 2024年度生

科 目 群		卒業に必要な単位数
共 通	必 修	9 単位
	選択必修	6 単位
	選 択	7 単位以上
計		22単位以上

- 必修科目 9 単位履修すること
 - 選択必修科目 6 単位履修すること。6 単位を超えた分は選択科目の単位となる。
 - 選択科目 7 単位以上履修すること
 - 合計22単位以上履修すること

▶履修期欄に「前・後」と記載がある科目は、配当年次のいずれかを履修すればよい。

科目区分	授業科目	単位数			授業形態	履修期	配当年次	備考	(○…重要な目的としている ○…主な目的としている)										
		必修	選択必修	選択					把資料・資料探査・資料解説・問題	決自課題の模索・省察	協調的課題追究	資料収集・資料分析	対話的検討・自力	の問題を自己の発見	協同的協議	分析的資料収集・	実験的・課題解決	協働的考察	
外国语目的別科目	実践英語 a		1	演習	前	2・3・4			○	○		○	○						
	実践英語 b		1	演習	後	2・3・4			○	○		○	○						
	アドバンスト・リスニング		2	講義	後	1・2・3・4			○	○		○	○		○				
	アドバンスト・リーディング		2	講義	前・後	1・2・3・4			○	○		○	○		○				
	アドバンスト・ライティング		2	講義	前・後	1・2・3・4			○	○		○	○		○			○	
	ビジネス英語		2	講義	後	2・3・4			○	○		○	○					○	
	映画・ドラマ英語		2	講義	前・後	2・3・4			○	○		○	○						
	メディア英語		2	講義	前	2・3・4			○	○		○	○		○		○	○	
	TOEIC対策講座		2	講義	後	1・2・3・4			○	○									
	中国語試験対策講座		2	講義	前	1・2・3・4									○	○	○		
	日本語検定対策講座		2	講義	前・後	1・2・3・4									○	○	○		
日本語（非母語者向）	総合日本語 I a		1	演習	前	1		※日本語を母国語としない者は、「総合日本語 I a」「総合日本語 I b」を履修することとしただし、JLPTN1を取得している（なければ模擬試験）、かつ、教員が実施する課題をもつて話す能力と書く能力がCEFRのC2レベルであると判断された者は、他の外国語を選択することができる。	○	○			○						
	総合日本語 I b		1	演習	後	1			○	○			○						
	総合日本語 II a		1	演習	前	2			○	○			○						
	総合日本語 II b		1	演習	後	2			○	○			○						
	総合日本語 III a		1	演習	前	3・4			○	○			○						
	総合日本語 III b		1	演習	後	3・4			○	○			○						
	日本語表現技術 I		1	演習	前	1・2・3・4			○	○			○						
	日本語表現技術 II		1	演習	後	1・2・3・4			○	○			○						
	日本語表現技術 III		1	演習	前	1・2・3・4			○	○			○						
	日本語表現技術 IV		1	演習	後	1・2・3・4			○	○			○						
	日本語研究 A (時事 I)		1	演習	前	1・2・3・4			○	○			○						
	日本語研究 B (時事 II)		1	演習	前	1・2・3・4			○	○			○						
	日本語研究 C (ビジネス I)		1	演習	前	1・2・3・4			○	○			○						
	日本語研究 D (ビジネス II)		1	演習	後	1・2・3・4			○	○			○						
	日本語研究 E (医療・福祉専門)		1	演習	後	1・2・3・4			○	○			○						
	日本語研究 F (人文科学)		1	演習	後	1・2・3・4			○	○			○						
キャリア教育	日本語能力試験対策講座 I		1	演習	前	1・2・3・4									○	○	○		
	日本語能力試験対策講座 II		1	演習	後	1・2・3・4									○	○	○		
	日本語集中講座		1	演習	前	1・2・3・4									○	○	○		
	キャリアデザイン入門	2		講義	前・後	2	学科ごとに異なる		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	キャリアロールモデル研究		2	講義	後	2												○	
	企業に学ぶキャリアデザイン		2	講義	前	2												○	
	プロアクティブ人材育成		2	講義	後	2												○	
	キャリアサポート演習		2	演習	通	3			○	○	○	○		○	○	○	○	○	
	キャリア基礎力 I		2	講義	前	2・3			○	○	○								
	キャリア基礎力 II		2	講義	後	2・3			○	○	○								
インターンシップ短期	インターンシップ短期	1		実習	前・後	1・2・3			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	インターンシップ長期	2		実習	前・後	1・2・3			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	